

# 措置報告書

令和6年8月22日

埼玉県男女共同参画苦情処理委員 様

さいたま市浦和区高砂三丁目15番1号  
埼玉県教育委員会教育長

令和5年8月30日付け第2号により通知のありました勧告に対しましては、次のとおり措置したので報告します。

---

## 勧告の趣旨

「男女別学」は女子に対するあらゆる形態の差別の撤廃に関する条約上、男女別学であることだけでは条約違反とはされていないものの「男女共学その他の種類の教育」を奨励することにより、男女の役割についての定型化された概念の撤廃が求められている。

埼玉県立高校の男女別学校における管理職や教職員の格差における問題が浮き彫りになっていることは明らかであり、別紙で提言した施策がなされるとともに、埼玉県立高校において、共学化が早期に実現されるべきである。

---

## 措置の状況及び内容

### 1 基本的な考え方

県教育委員会では、平成14年度に埼玉県男女共同参画苦情処理委員（以下「苦情処理委員」という。）に提出した報告書（以下「平成14年度報告」という。）の記載のとおり、男女別学校について、「将来にわたって共学化を進めていくという立場に立ちながらも、（中略）早期に共学化を実現するという結論には至らなかった」ため、「当面は、現状を維持することとするが、各学校が、教育内容を大きく変更するなど、特色ある学校づくりに向けて主体的に取り組む中で、共学化を検討する可能性もあり、そのような場合においては、県教育委員会として積極的に支援」することを方針としてきた。

この間、男女別学校では特色ある学校づくりに向けて、それぞれ教育活動の充実に取り組む中で、一部の学校は共学化を検討したため、県教育委員会では、その取組を支援し男女共学校とした。また、再編整備に伴う新設校は、

全て男女共学校とした。

県教育委員会としては、男女における教育の機会均等を確保していることや男女別学校に一定のニーズがあること、現在の男女別学校12校からこれまで共学化の検討の報告がなかったことから、現状を維持することとし、苦情処理委員からの「勧告書（令和5年8月30日付け・令和6年5月8日付け修正）」（以下「令和5年度勧告」という。）で示された「中学生を含めた県民全体の意識調査」等を行わなかった。

近年、男女共同参画の推進や、急速なグローバル化の進展、デジタル技術の発展など社会が大きく変化しており、学校教育も社会の変化に応じた一層の変革が求められるようになってきている。

今後一層、少子化が進み、中学校卒業生数が減少していく中で、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められており、県教育委員会として今後の県立高校の在り方を総合的に検討する中で、共学化について、主体的に検討していく必要がある。

## 2 本県の男女共学への取組

### (1) 平成14年度報告後の取組

男女別学校の一部を男女共学校としたほか、県立高校の再編整備に伴う新設校は男女共学校とした。その概要は次のとおりである。

男女共学化年度	前	後
平成15年度	常盤女子高等学校（女子校）	常盤高等学校（男女共学校）
	川口工業高等学校 （機械科：男子のみ、電気科・電子科：男女共学）	川口工業高等学校（男女共学校） 【機械科において女子の募集も行い、男女共学とした】
平成17年度	行田女子高等学校（女子校）	進修館高等学校（男女共学校）【新設】
	行田進修館高等学校（男女共学校）	
	行田工業高等学校（男女共学校）	
平成20年度	秩父東高等学校（女子校）	秩父農工科学高等学校（男女共学校）【新設】
	秩父農工高等学校（男女共学校）	
	不動岡誠和高等学校 （普通科：女子のみ、社会福祉科：男女共学）	
	騎西高等学校（男女共学校）	誠和福祉高等学校（男女共学校）【新設】

### (2) 令和5年度勧告後の取組

令和5年度勧告後、県教育委員会は次の取組を行った。

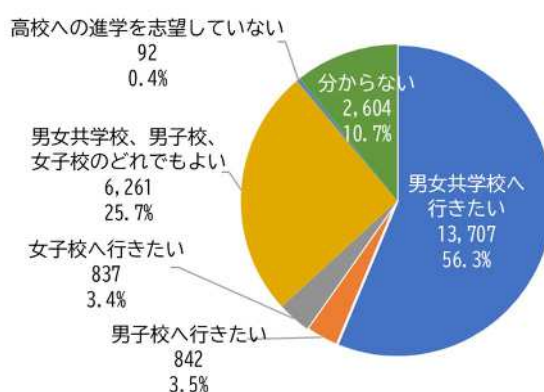
ア 「埼玉県立の男女別学校に関するアンケート」（以下「アンケート」という。）

県内在住又は在学の中学生及び高校生とその保護者の意見を把握するため、アンケートを実施した。アンケートの概要は枠内のとおり。

<b>ア アンケート趣旨</b>	埼玉県男女共同参画苦情処理委員からの勧告に対する報告内容についての検討の際の参考とするため、埼玉県立の男女別学校12校の「男女共学化」、「男女別学の維持」等の意見を把握することを目的としたもの。
<b>イ アンケート対象</b>	県内に在住又は在学の中中学生及び高校生とその保護者
<b>ウ アンケート期間</b>	令和6年4月17日（水曜日）から5月17日（金曜日）まで ※令和6年4月17日（水曜日）から4月19日（金曜日）午前11時までは記名なしで回答 令和6年4月19日（金曜日）午後6時以降は記名の上で回答
<b>エ 回答方法</b>	Web上のアンケートフォームで回答
<b>オ 集計回答人数</b>	<p>(記名あり) 64,829人 ※実際の回答人数の92.0% (記名なし) 8,157人</p> <p>内訳) 中学生 24,343人 高校生 7,286人 中学生保護者 15,790人 高校生保護者 19,410人</p> <p>内訳) 中学生 77人 高校生 3,165人 中学生保護者 509人 高校生保護者 4,406人</p> <p>※集計回答人数は、実際の回答人数から姓名の入力がなかったなどの回答5,642人を除いた数 ※実際の回答人数は、(記名あり) 70,471人</p> <p>内訳) 中学生 25,825人 高校生 8,071人 中学生保護者 17,420人 高校生保護者 19,155人</p>

次に、アンケートの結果の一部について示す。詳細は、別添1-1（16ページ）及び別添1-2（89ページ）のとおり。

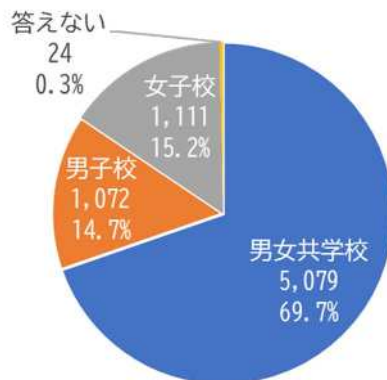
(ア) 【中学生】 次のうちのどの高校へ進学したいですか。現時点の考えを教えてください。



回答を選んだ理由（三つまで選択可能）

項目	選択数	選択割合	回答別の理由			
			男女共学校へ行きたい 25,304件	男子校へ行きたい 1,685件	女子校へ行きたい 1,673件	共学・別学 どれでもよい 10,514件
① 自分の学力に合っているから	6,687	17.1%	16.7%	16.7%	11.7%	19.0%
② 自分が学びたい学科があるから	3,167	8.1%	7.6%	5.7%	5.7%	10.1%
③ 自分が望む進学や就職などの実績があるから	3,306	8.4%	7.4%	11.7%	9.7%	10.2%
④ 部活動や学校行事にみりよくがあるから	7,294	18.6%	19.4%	19.1%	16.5%	17.0%
⑤ 学校の伝統や学校のふんいきにみりよくがあるから	3,769	9.6%	9.0%	19.0%	18.1%	8.4%
⑥ 通学が便利だから	3,698	9.4%	9.4%	6.5%	7.5%	10.3%
⑦ 男女共学校であるから	5,413	13.8%	20.5%	0.2%	0.2%	2.0%
⑧ 男女別学校であるから	718	1.8%	0.1%	14.7%	24.2%	0.4%
⑨ その他（50字以内）	764	2.0%	1.8%	3.5%	3.6%	1.8%
⑩ 特になし・分からない	4,360	11.1%	8.2%	3.0%	2.9%	20.8%
選択数計	39,176	100.0%				

(イ) 【高校生】 在 school (共学・別学など)



現在の在 school を選んだ理由 (三つまで選択可能)

項目	選択数	選択割合	回答別の理由			
			男女共学校 10,764件	男子校 2,902件	女子校 2,816件	答えない 47件
① 自分の学力に合っているから	4,735	28.6%	31.4%	22.3%	24.7%	31.9%
② 自分が学びたい学科があるから	927	5.6%	7.5%	0.8%	3.3%	10.6%
③ 自分が望む進学や就職等の実績があるから	1,358	8.2%	8.3%	8.6%	7.5%	10.6%
④ 部活動や学校行事に魅力があるから	2,730	16.5%	15.6%	20.5%	15.9%	8.5%
⑤ 学校の伝統や校風に魅力があるから	1,902	11.5%	7.2%	23.6%	15.6%	8.5%
⑥ 通学が便利だから	2,370	14.3%	17.6%	5.9%	10.5%	14.9%
⑦ 男女共学校であるから	921	5.6%	8.5%	0.0%	0.0%	0.0%
⑧ 男女別学校であるから	1,092	6.6%	0.0%	16.9%	21.2%	2.1%
⑨ その他 (50字以内)	251	1.5%	1.8%	1.1%	1.0%	4.3%
⑩ 特にない・分からない	243	1.5%	2.0%	0.4%	0.4%	8.5%
選択数計	16,529	100.0%				

<(ア)及び(イ)について>

【中学生】

「どの高校へ進学したいですか。」について、「男女共学校へ行きたい」とした理由として、「男女共学校である」、「部活動や学校行事にみりよくがある」、「自分の学力に合っている」が多かった。

次に、「男子校へ行きたい」とした理由として、「部活動や学校行事にみりよくがある」、「学校の伝統や学校のふんいきにみりよくがある」、「自分の学力に合っている」が多かった。

次に、「女子校へ行きたい」とした理由として、「男女別学校である」、「学校の伝統や学校のふんいきにみりよくがある」、「部活動や学校行事にみりよくがある」が多かった。

【高校生】

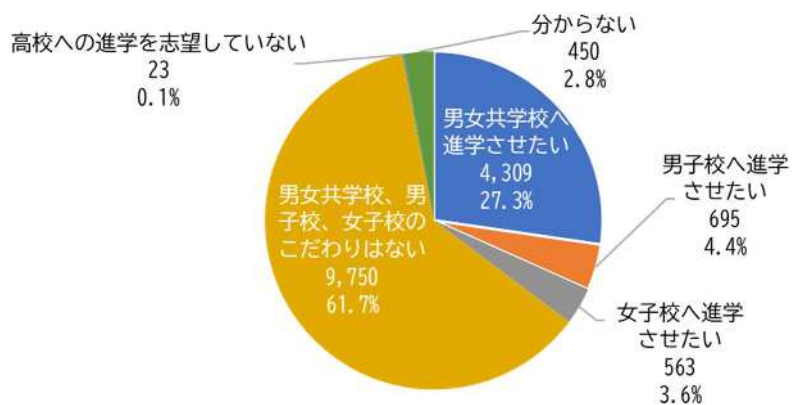
「現在の在 school (共学・別学など)」について、「男女共学校」を選んだ理由として、「自分の学力に合っている」、「通学が便利」、「部活動や学校行事に魅力がある」が多かった。

次に、「男子校」を選んだ理由として、「学校の伝統や校風に魅力が

ある」、「自分の学力に合っている」、「部活動や学校行事に魅力がある」が多かった。

次に、「女子校」を選んだ理由として、「自分の学力に合っている」、「男女別学校である」、「部活動や学校行事に魅力がある」が多かった。

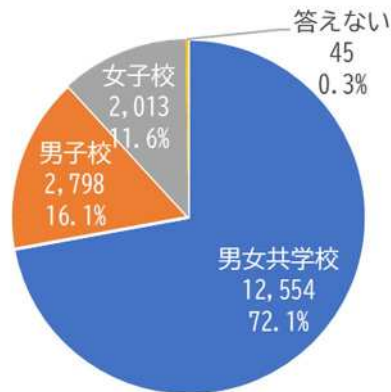
(ウ) 【中学生保護者】お子様を次のうちのどの高校へ進学させたいですか。現時点の考えを教えてください。



回答を選んだ理由（三つまで選択可能）

項目	選択数	選択割合	回答別の理由			
			男女共学校へ進学させたい 7,907件	男子校へ進学させたい 1,681件	女子校へ進学させたい 1,332件	共学・別学の こだわりはない 18,873件
① 子供の能力・適性に合っているから	8,627	29.0%	27.4%	20.8%	17.7%	31.1%
② 進学や就職等の実績があるから	2,838	9.5%	8.7%	11.8%	8.5%	9.7%
③ 学校の伝統や校風に魅力があるから	3,712	12.5%	6.4%	30.6%	26.1%	12.4%
④ 通学が便利だから	3,106	10.4%	12.0%	3.0%	4.4%	10.9%
⑤ 男女共学校であるから	1,662	5.6%	20.6%	0.1%	0.0%	0.2%
⑥ 男女別学校であるから	482	1.6%	0.1%	13.7%	17.5%	0.1%
⑦ 子供が志望していたから	7,011	23.5%	18.8%	17.7%	23.3%	26.1%
⑧ その他（50字）	988	3.3%	2.8%	2.3%	2.4%	3.7%
⑨ 特になし・分からない	1,367	4.6%	3.3%	0.1%	0.1%	5.9%
選択数計	29,793	100.0%				

(エ) 【高校生保護者】お子様の在学学校（共学・別学など）



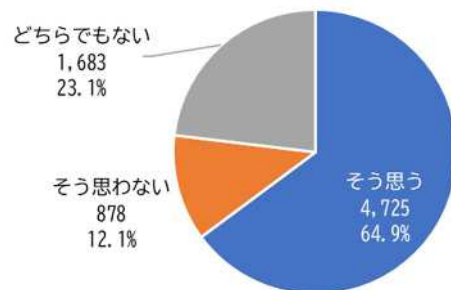
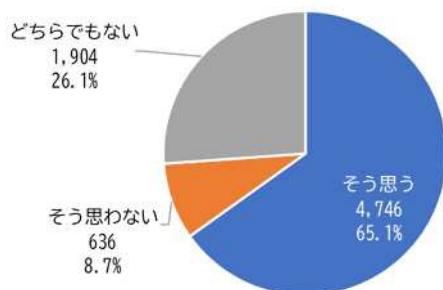
現在の在学学校を選んだ理由（三つまで選択可能）

項目	選択数	選択割合	回答別の理由			
			男女共学校 28,828件	男子校 7,717件	女子校 5,344件	答えない 94件
① 子供の能力・適性に合っているから	11,890	28.3%	30.6%	22.6%	24.5%	26.6%
② 進学や就職等の実績があるから	4,153	9.9%	10.2%	10.0%	8.3%	6.4%
③ 学校の伝統や校風の魅力があるから	5,302	12.6%	7.6%	26.6%	19.6%	12.8%
④ 通学が便利だから	5,859	14.0%	17.1%	5.4%	9.3%	13.8%
⑤ 男女共学校であるから	1,231	2.9%	4.3%	0.0%	0.1%	1.1%
⑥ 男女別学校であるから	1,392	3.3%	0.0%	10.1%	11.2%	3.2%
⑦ 子供が志望していたから	11,550	27.5%	28.6%	24.6%	25.8%	35.1%
⑧ その他（50字以内）	550	1.3%	1.5%	0.8%	1.2%	0.0%
⑨ 特になし・分からない	56	0.1%	0.2%	0.0%	0.0%	1.1%
選択数計	41,983	100.0%				

(オ) 【高校生】現在、在学している学校について伺います。以下の各項目は実際に入学してみてどうでしたか。各項目について、「そう思う」「そう思わない」「どちらでもない」から一つ選んでください。

男女共同参画やジェンダー平等に対する理解が進んでいる

「男子は〇〇」「女子は□□」といった固定的な役割分担意識にとらわれないで学校生活を送れる



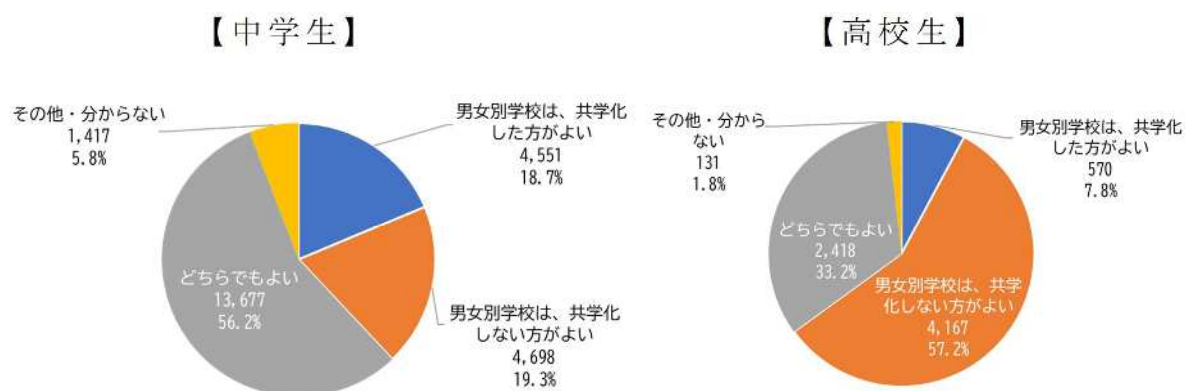
<(オ)について>

【高校生】

「男女共同参画やジェンダー平等に対する理解が進んでいる」につ

いて、「そう思う」と回答した高校生は、65.1%であった。また、『男子は〇〇』『女子は□□』といった固定的な役割分担意識にとられないで学校生活を送れる」について、「そう思う」と回答した高校生は、64.9%であった。

(カ) 県立の男女別学校12校の在り方について選んでください。



(キ) 県立の男女別学校12校の在り方について、「男女別学校は、共学化した方がよい」を選んだ理由を選んでください。(三つまで選択可能)

【中学生】

項目	選択数	選択割合
① 性別によって入学できない高校があるのは、公平ではないから	3,189	32.9%
② 自分の力を発揮できる、または、のばすことができるから	878	9.0%
③ 異性を理解して認め合ったり仲よくできる、または、ジェンダー平等に対する理解が進むから	2,196	22.6%
④ 性別によらず、いろいろな係や役割などを体験することができるから	1,563	16.1%
⑤ 共学化しても、伝統の尊重や学校のふんいきのいじができるから	653	6.7%
⑥ 学校生活を安心して過ごせるような友人ができる、または、居場所があるから	869	9.0%
⑦ その他(50字以内)	126	1.3%
⑧ 特にない・分からない	232	2.4%
選択数計	9,706	100.0%

表中「⑦その他」の主な意見は、次のとおりである。

- ・ 社会に出たとき異性とコミュニケーションが取れないと困るから、恋愛・青春をしたいから。
- ・ 高校選択の幅が広がるから、共学に行きたい生徒の選択肢が広がるから。
- ・ 男女が共に生活することは当たり前であるから、男女で分ける必要はないから。

## 【高校生】

項目	選択数	選択割合
① 性別によって入学できない高校があるのは、公平ではないから	377	33.4%
② 自分の力を発揮できる、または、伸ばすことができるから	117	10.4%
③ 男女共同参画やジェンダー平等に対する理解が進むから	175	15.5%
④ 「男子は〇〇」「女子は□□」といった固定的な役割分担意識を持ちづらいから	140	12.4%
⑤ 共学化しても、伝統の尊重や校風の維持ができるから	124	11.0%
⑥ 学校生活を安心して過ごせるような友人ができる、または、居場所があるから	133	11.8%
⑦ その他（50字以内）	41	3.6%
⑧ 特にない・分からない	21	1.9%
選択数計	1,128	100.0%

表中「⑦その他」の主な意見は、次のとおりである。

- ・ 社会では男女がともに生活をしているから、異性がいた方が様々な考えや意見などを学べるから。
- ・ 少子高齢化対策となるから。
- ・ 男女別学校の志願倍率が低下しているから。

(ク) 県立の男女別学校12校の在り方について、「男女別学校は、共学化しない方がよい」を選んだ理由を選んでください。(三つまで選択可能)

## 【中学生】

項目	選択数	選択割合
① 男女共学校・男女別学校の両方を選べる方がよいから	3,697	37.9%
② 自分の力を発揮できる、または、のばすことができるから	1,292	13.2%
③ 異性を理解して認め合ったり仲よくできる、または、ジェンダー平等に対する理解が進むから	467	4.8%
④ 性別によらず、いろいろな係や役割などを経験することができるから	890	9.1%
⑤ 共学化すると、伝統の尊重や学校のふんいきのいじがでなくなるから	1,352	13.8%
⑥ 学校生活を安心して過ごせるような友人ができる、または、居場所があるから	1,464	15.0%
⑦ その他（50字以内）	498	5.1%
⑧ 特にない・分からない	106	1.1%
選択数計	9,766	100.0%

表中「⑦その他」の主な意見は、次のとおりである。

- ・ 異性への苦手意識を持っている人がいるから。
- ・ 男女別学校、男女共学校をそれぞれ選択できるようにすべきだから、選択の自由・権利を奪うべきではないから。
- ・ 男女別学校を志望しているから。



## 【高校生】

項目	選択数	選択割合
① 男女共学校・男女別学校の両方を選択できる方がよいから	3,486	35.0%
② 自分の力を発揮できる、または、伸ばすことができるから	1,358	13.6%
③ 男女共同参画やジェンダー平等に対する理解が進むから	176	1.8%
④ 「男子は〇〇」「女子は□□」といった固定的な役割分担意識を持ちづらいから	727	7.3%
⑤ 共学化すると、伝統の尊重や校風の維持ができなくなるから	2,001	20.1%
⑥ 学校生活を安心して過ごせるような友人ができる、または、居場所があるから	1,569	15.7%
⑦ その他（50字以内）	627	6.3%
⑧ 特にない・分からない	22	0.2%
選択数計	9,966	100.0%

表中「⑦その他」の主な意見は、次のとおりである。

- ・ 異性に対して苦手・恐怖心を持っている生徒が、安心して学校生活を送ることができるから。
- ・ 男女別学校、男女共学校をそれぞれ選択できた方がよいから。
- ・ 共学化すると、男女別学校の伝統や雰囲気失われてしまうから。

< (カ)、(キ)及び(ク)について >

## 【中学生】

県立の男女別学校12校の在り方について、「共学化した方がよい」とした理由として、「性別によって入学できない高校があるのは、公平ではない」、「異性を理解して認め合ったり仲よくできる、または、ジェンダー平等に対する理解が進む」、「性別によらず、いろいろな係や役割などを経験することができる」が多かった。

また、「共学化しない方がよい」とした理由として、「男女共学校・男女別学校の両方を選べる方がよい」、「学校生活を安心して過ごせるような友人ができる、または、居場所がある」、「共学化すると、伝統の尊重や学校のふんいきのいじができなくなる」が多かった。

## 【高校生】

県立の男女別学校12校の在り方について、「共学化した方がよい」とした理由として、「性別によって入学できない高校があるのは、公平ではない」、「男女共同参画やジェンダー平等に対する理解が進む」、「『男子は〇〇』『女子は□□』といった固定的な役割分担意識を持ちづらい」が多かった。

また、「共学化しない方がよい」とした理由として、「男女共学校・男女別学校の両方を選択できる方がよい」、「共学化すると、伝統の尊重や校風の維持ができなくなる」、「学校生活を安心して過ごせるよう

な友人ができる、または、居場所がある」が多かった。

なお、「共学化した方がよい」、「共学化しない方がよい」とした理由それぞれに、一定数の中学生、高校生から「学校生活を安心して過ごせるような友人ができる、または、居場所がある」との回答があった。

#### イ 県民からの意見聴取

令和5年10月から令和6年7月にかけて、県教育委員会に意見を伝える意向を示した団体から、令和5年度勧告に対してや、男女共学校、男女別学校の特徴などに対する意見を聴取した。

意見を聴取した団体及び実施日は次のとおりである。

意見聴取団体	実施日	意見聴取団体	実施日	意見聴取団体	実施日
1 共学ネット・さいたま (市民グループ)	令和5年10月12日	11 久喜高校 保護者・後援会・同窓会	2月24日	21 熊谷西高校 保護者	5月11日
2 浦和高校 保護者・同窓会	令和6年1月27日	12 浦和第一女子高校 保護者・同窓会	3月2日	22 大宮高校 保護者	5月25日
3 浦和第一女子高校 保護者・後援会・同窓会	1月30日	13 松山女子高校 保護者・後援会・同窓会	3月2日	23 越谷北高校 保護者	6月22日
4 熊谷高校 保護者・後援会・同窓会	1月31日	14 共学ネット・さいたま (市民グループ)	3月15日	24 埼玉教職員組合 埼玉高等学校教職員組合	7月12日
5 熊谷女子高校 保護者・後援会・同窓会	2月3日	15 春日部女子高校 保護者・後援会	3月16日		
6 鴻巣女子高校 保護者・同窓会	2月6日	16 浦和高校 生徒有志	3月21日		
7 春日部高校 保護者・後援会・同窓会	2月10日	17 共学ネット・さいたま (市民グループ)	3月28日		
8 川越高校 保護者・同窓会	2月17日	18 川越女子高校 同窓会	4月15日		
9 松山高校 保護者・後援会・同窓会	2月17日	19 共学ネット・さいたま (市民グループ)	4月18日		
10 川越女子高校 保護者	2月18日	20 所沢北高校 保護者	4月26日		

また、聴取した主な内容は、「教育の機会均等・ニーズなど」、「歴史・伝統など」、「男女共同参画の視点に立った教育など」、「安心など」及び「法令・法規など」である。

詳細について、上記表中の1から15までと17から19までは別添2-1(113ページ)、上記表中の16は別添2-2(115ページ)、上記表中の20から23までは別添2-3(117ページ)のとおり。

#### ウ 男女共同参画の視点からの本県の県立高校への調査

令和5年度勧告で示されている「目指す学校像」に加えて、男女共学校と男女別学校の「学校行事」、「高校在籍時における理系・文系等選択(令和4年度)」、「大学学部別進路(令和4年度)」、「男女共学校における生徒会等の主要役員の男女別数(令和5年度)」についても次の枠内の学校を対象に調査を行った。また、学科等の設置状況(男女共学校、男女別学校に設置されている理数科、外国語科等、家庭(家政・保育)

に関する学科)を調査した。

男女共同参画の視点からの本県の県立高校への調査

対象 男女別学校 1 2 校

男女共学校 1 1 校\*

(春日部東、久喜北陽、越谷北、川越南、坂戸、所沢北、浦和西、大宮、蕨、熊谷西、鴻巣)

\*男女共学校 1 1 校は、男女別学校 1 2 校の近隣に所在している、在校生の居住地が重なる、進路状況が重なるという観点で選出した。

調査結果の概要(「学科等の設置状況」については3(1)で、「目指す学校像」については3(2)で後述する。)は次のとおりである。

男女共学校の「学校行事」における「主な体育的行事」では、男女で種目の内容を変えている学校が多く見られた。一方で、持久走大会について、8 kmと5 kmの2部門で男女に分けず、本人の希望により参加部門を決定している学校があった。

「高校在籍時における理系・文系等選択」については、男女共学校、男女別学校ともに、女子生徒は男子生徒と比べ、理系を選択する生徒の割合が低くなる傾向がある。また、「大学学部別進路」について、男女共学校、男女別学校ともに、女子生徒は男子生徒と比べ、理工系分野の理学・工学・農学・保健を選択する割合が低くなる傾向があり、改善に努める必要がある。

「男女共学校における生徒会等の主要役員の男女別数」の割合については、男女共学校 1 1 校の在籍生徒数の男女別割合が男子生徒約 5 1 %、女子生徒約 4 9 %のところ、主要役員数の男女別割合は男子生徒約 4 8 %、女子生徒約 5 2 %だった。

詳細は、別添 3 ( 1 1 9 ページ ) のとおり。

#### エ 要望書等の受領

要望書、意見書、団体等が実施したアンケート等が、教育長及び教育委員宛てに提出された。提出者、件名、提出日は、別添 4 ( 1 3 4 ページ ) のとおり。詳細は、ホームページを参照。

(<https://www.pref.saitama.lg.jp/f2207/kankoku-houkoku.html>)

### 3 本県の県立高校の状況

- (1) 設置学科等(理数科、外国語科等、家庭(家政・保育)に関する学科)理数科は、男子校 1 校、男女共学校 4 校に設置している。外国語科は、

女子校 1 校、男女共学校 6 校に設置している。また、普通科外国語コース及び普通科外国語学系は、それぞれ男女共学校 1 校に設置している。家政に関する学科は、女子校 1 校（家政科学科）、男女共学校 3 校（服飾デザイン科、食物調理科等）に設置している。理数科、外国語科等、家政に関する学科は、男女ともに学ぶ機会を提供しているが、男女で入学できる学校数に相違がある。

保育科は、女子校 1 校に設置している。そのほか、女子校 4 校、男女共学校 8 5 校にも保育を学ぶことができる科目（保育基礎、保育実践等）を設定しているが、履修できる単位数は、保育科と比べると少なくなっている。

詳細については、別添 3（1 3 1 から 1 3 3 ページまで）のとおり。

## (2) 目指す学校像

「目指す学校像」について、男子校、女子校で、「リーダー育成」等や「地域に貢献」等という文言の数に違いがあるが、「目指す学校像」は、校長が、学校の特色や児童生徒、地域、保護者からの期待等を踏まえ、設定するものであることから、その文言だけで傾向の違いを読み取ることは難しい。

校長は、男女共同参画の視点を持って「目指す学校像」等の学校の方針を定めることが重要である。詳細については、別添 3（1 2 0 から 1 2 1 ページまで）のとおり。

## (3) 再編整備計画

県教育委員会では、平成 2 8 年 3 月に再編整備も含めた魅力ある県立高校づくりの基本的な考え方などを示した「魅力ある県立学校づくりの方針」を策定し、県立高校の活性化・特色化の取組を進めている。

今後は、男女共同参画の視点に立った教育や共学化に関する県教育委員会の考え方を県民に示すため、同方針への記載を検討する必要がある。

## (4) 県立高校の女性管理職及び女性教職員の割合

令和 5 年度勧告で示された項目を含む令和 4 年度の割合と令和 6 年度の割合を比較した。

ア 県立高校（全日制）の女性管理職（校長、副校長・教頭、事務長等）の割合

	令和4年度	令和6年度
高校全日制	14.3% (11.9%)	17.6% (13.7%)
男女共学校	14.2% (11.5%)	16.1% (12.8%)
男子校	0.0% (0.0%)	25.0% (20.0%)
女子校	32.0% (27.8%)	36.0% (22.2%)

（表の括弧内は、女性校長、女性副校長・女性教頭の割合）

「埼玉県教育委員会 女性活躍・子育て応援事業主プラン（後期計画）」において、「管理職に占める女性職員の割合を令和7年度末までに概ね20%程度」という目標を掲げており、令和6年度においては男子校と女子校間の女性管理職の割合の差を、令和4年度と比べ改善させた。

引き続き、全体としての女性管理職の割合を高めるために、女性管理職の登用に努める必要がある。

イ 県立高校（全日制）の女性教職員の割合

	令和4年度	令和6年度
高校全日制	36.7% (35.3%)	37.2% (35.8%)
男女共学校	36.7% (34.2%)	37.2% (35.9%)
男子校	21.4% (19.3%)	21.6% (19.1%)
女子校	49.1% (47.0%)	50.3% (47.9%)

（表の括弧内は、女性教員の割合。教員とは、教育職員等（非常勤講師を含む）をいう。）

男子校の女性教職員の割合、特に女性教員の割合について、男女共同参画を推進する観点から、学校間の均衡に努める必要がある。

(5) 歴史や伝統の尊重と共学化の両立

歴史や伝統の尊重と共学化の両立について、アンケートや意見聴取等からは、「男女別学校の伝統や教育水準を損なわずに共学化は可能」との意見があった一方、「共学化によって校風や学校行事等の特色が失われる」などの意見があった。

なお、他県への調査では、各教育委員会や学校が、共学化に伴う教育活動の変化に対応するための工夫をしていたことが分かった。他県への調査の詳細は、別添5（139ページ）のとおり。

県教育委員会としては、これまでの学校の歴史や伝統の尊重は重要であると考えている。また、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、新しい歴史や伝統を創っていくことも重要であるとする。

(6) 県立高校における公共性

男女共同参画の視点から見れば、男女が互いに協力して学校生活を送ることは意義があることから、今後とも、男女が共に学んでいく学校をつくり上げていくことが望ましいと考える。

また、男女共同参画の視点に立った教育を推進していくことは重要である。

本県では、男女別学校にも、県民からの一定のニーズがある中で、男女共学校、男子校、女子校を選択できる状況にあり、男女の教育の機会均等を確保している。

今後とも、社会の変化や中学生を含めた県民の意見を踏まえた、総合的な視点から県立高校の公共性を確保していくことが重要である。

## 4 今後の方向性

上記1から3までの内容を踏まえ、令和5年度勧告に対する今後の方向性を次に示す。

(1) 令和5年度勧告で提言された施策等への対応

ア 設置学科等の在り方について、理数科、外国語科等、家庭（家政・保育）に関する学科は、男女で入学できる学校数に相違がある。また、保育に関する科目を学ぶことができる女子校4校及び男女共学校85校で、履修できる単位数は、保育科と比べると少なくなっている。したがって、学科再編等に当たっては、それぞれの均等に留意していく。

イ 再編整備計画について、今後、男女共同参画の視点に立った教育や共学化に関する県教育委員会の考え方を県民に示すため、「魅力ある県立

学校づくりの方針」への記載を検討する。

ウ 県立高校の女性管理職及び女性教職員の割合について、県立高校全体として女性管理職を増やすとともに、特に男子校における女性管理職について、女子校や男女共学校との均衡を図る。また、男子校の女性教職員の割合、特に女性教員の割合について、男女共同参画を推進する観点から、学校間の均衡に努める。

エ 歴史や伝統の尊重と共学化の両立について、県教育委員会として、男女別学校を男女共学校とする際には、これまでの学校の歴史や伝統を尊重しつつ、社会の変化や生徒のニーズ等を踏まえて、学校が新しい歴史や伝統を創りあげていくことができるよう学校を支援していく。

オ 男女共同参画の視点に立った教育について、今後、全ての県立高校において、より一層推進するため、教職員への研修を充実させていく。

## (2) 県立高校の共学化について

男女共同参画社会の中において、高校の3年間を男女が互いに協力して学校生活を送ることには意義があり、県教育委員会は、主体的に共学化を推進していくこととする。

今回のアンケートや意見聴取等では、男女共学校について、「自分の学力に合っている」との意見が多くあった一方で、男女別学校について、「学校の伝統や校風に魅力がある」との意見も多かった。そのほか、様々な内容の意見があり、男女共学校、男女別学校には、多様なニーズがあることが分かった。

このことから、男女別学校の共学化に当たっては、県民の意見を丁寧に把握する必要があるため、県教育委員会が、アンケートや地域別での意見交換、有識者からの意見聴取などを実施していく。

今後、中学校卒業生数が減少し、また、教育ニーズが多様化していく中、男女における教育の機会均等を確保しながら、将来にわたり個人の能力と希望に応じた進学先の選択肢を用意することが求められる。県教育委員会として、今後の県立高校の在り方について総合的に検討する中で、主体的に共学化を推進していく。